

不均衡の経済分析： 伊藤先生の初期のご研究

伊藤隆敏先生メモリアル・コンファレンス
2026年3月7日
福田慎一（東京大学）

伊藤先生の初期のご研究

- 純粋理論、全く実証研究なし
- 一橋大学経済学部（荒憲治郎ゼミ）
⇒ 一橋大学大学院：経済成長理論を学ぶ
- ただし、その間、東大の根岸隆ゼミにも参加
- ケインズ経済学のミクロ的基礎：マクロ不均衡モデルを学ぶ
→ クラウワー・モデル（不均衡を前提とした最適化モデル）、屈折需要曲線など
- ハーバード大学博士課程：ケネス・アローが指導教官 ⇒ 不均衡モデルの一意解の存在証明の方法
- マクロ不均衡動学：3人の先生の考えを体系化
- 不均衡分析の計量経済学経済学の理論分析

伊藤先生のマクロ不均衡動学： 不均衡成長理論

- 局面転換を伴う動学的な安定性の分析
- とくにHonkapohja (University of Helsinki)との共同研究
- 当時の主流な考え方
- 均衡（合理的期待形成学派）⇒多くの場合、動学的に安定
- 不均衡（ケインズ経済学）⇒多くの場合、動学的に不安定
- 伊藤先生らの問題提起：マクロ経済は、常に「均衡」であるわけでもなければ、常に「不均衡」であるわけでもないのでは？
- 以下のような局面変化が常に起こっているのではないか？
- 均衡⇒不均衡⇒均衡⇒不均衡⇒均衡⇒不均衡⇒・・・

Question:

マクロ経済で、均衡 \Rightarrow 不均衡 \Rightarrow 均衡 \Rightarrow 不均衡
 \Rightarrow . . .、という局面変化が起こっているとき、
経済は動学的に安定か？それとも不安定か？

- 手法：局面転換を伴う微分方程式体系の安定性
- 結果：条件によって、経済は、動学的に安定であったり、不安定であったりする
- Ito, T., (1980), "Disequilibrium Growth Theory," *Journal of Economic Theory*, Vol. 23, pp.380-409.
- Honkapohja, S., and T. Ito, (1983), "Stability with Regime Switching," *Journal of Economic Theory*, Vol. 29, pp.22-48.

2つの興味深い例：2局面のケース

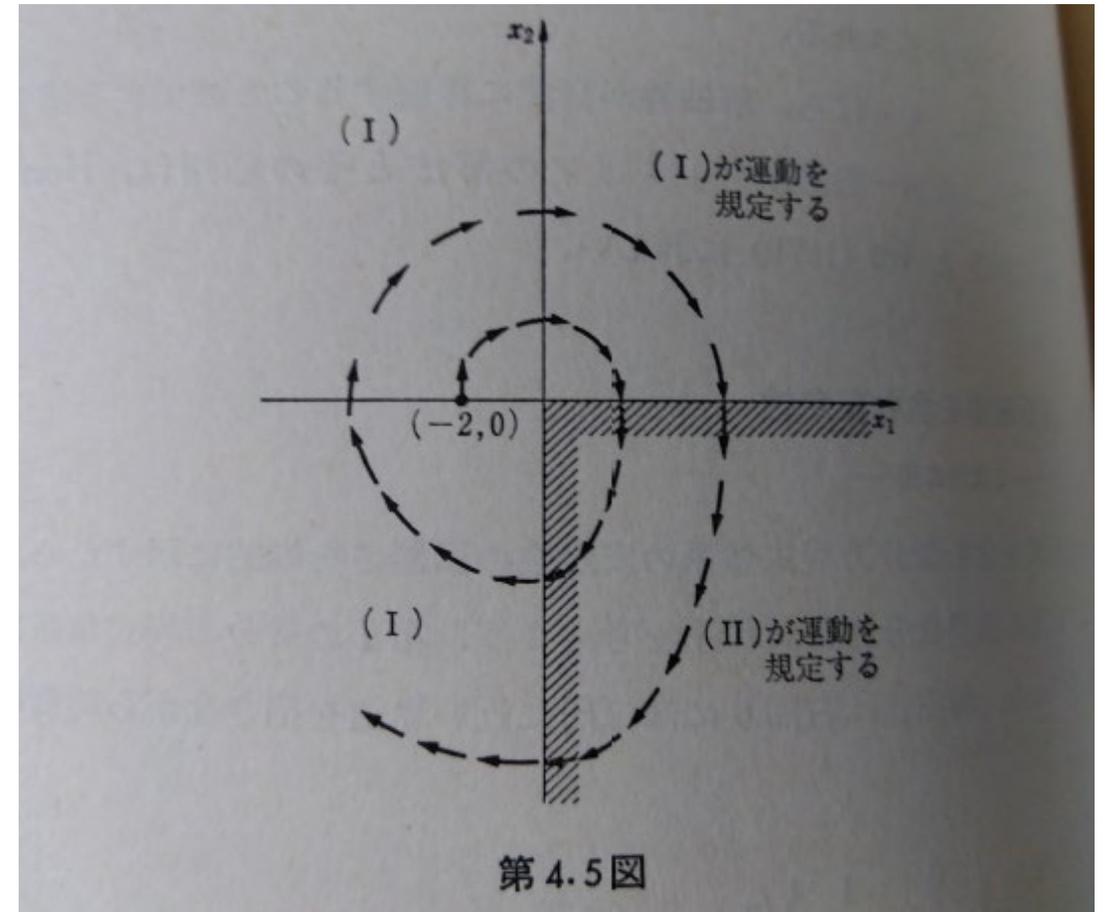
$1 + 1 \neq 2$

(1) 各局面（均衡と不均衡）は、それぞれ動学的に安定

- しかし、局面転換があると、動学的に不安定になることもある

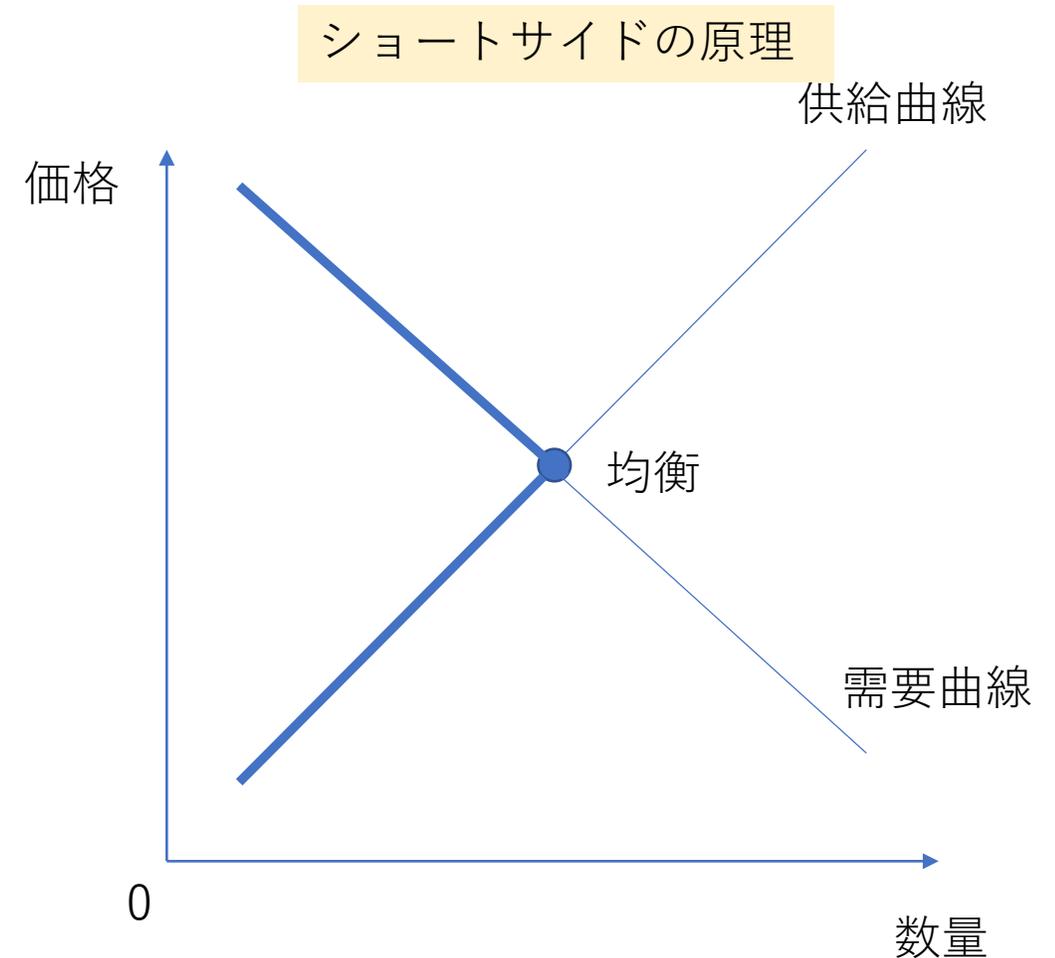
(2) 各局面（均衡と不均衡）は、それぞれ動学的に不安定

- しかし、局面転換があると、動学的に安定になることもある



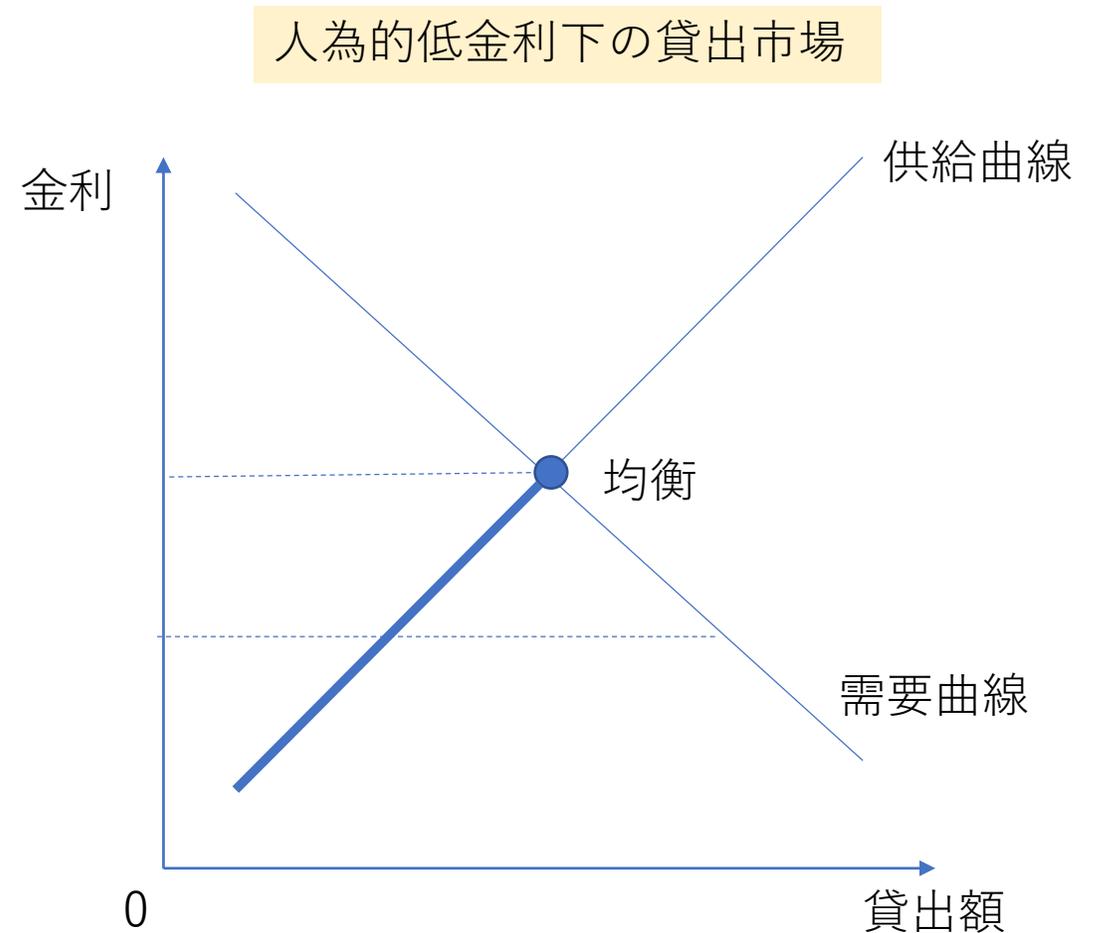
不均衡分析の計量経済経済学の理論分析

- 問題意識：マクロ経済が、「均衡」の状態にあるか、それとも「不均衡」の状態にあるかをいかに実証的に分析するか？
- 仮定
- 均衡の状態：需要曲線と供給曲線の交点で価格と数量が決定
- 不均衡の状態：需要曲線と供給曲線のどちらか一方で、価格と数量が決定（ショートサイドの原理）
- それまでの研究：静学の枠組みで分析する手法が知られていた
- 伊藤先生の貢献：局面転換を伴う動学の枠組みで分析する手法を開発：「きわめて複雑な尤度関数の計算」
- Ito, T., (1980), "Methods of Estimation for Multi-Market Disequilibrium Models," *Econometrica* Vol.48, pp.97-125.



はじめての実証研究：貸出市場の不均衡分析

- 貸出市場が不均衡かどうかの日米比較
- 当時、金利が人為的に低く設定
- 米国：FRBのレギュレーションQ
- 日本：大蔵省の金融行政
- それによって不均衡が発生していたか？
- Ito, T. and K. Ueda, (1981), "Tests of Equilibrium Hypothesis in Disequilibrium Econometrics: An International Comparison of Credit Rationing," International Economic Review, Vol.22, pp.691-708.



実証研究への目覚め： 植田和男先生との出会い

- 伊藤先生にとっては初めての実証分析
- 当初の論文の役割分担：伊藤先生が理論パートを、植田先生が実証パート
- しかし、論文を執筆するうちに実証分析の面白さに目覚める
- 世界経済や日本経済でいったい何が起きているかを解明することの重要性を認識
- 実証分析が中心となるその後の研究への大きな転機となった論文

これら一連の研究成果をまとめたご著書

- 伊藤隆敏 著『不均衡の経済分析』東洋経済新報社、1985年08月01日刊.
- **第29回日経経済図書文化賞受賞**
- その後、伊藤先生の主たる研究テーマは、国際金融の実証分析、日本経済の実証分析へ
- 実証分析で、数多くの論文をトップジャーナルに刊行
- これらの研究成果は、世界的に多くの方々に知られている！
- 単著は伊藤隆敏 著『インフレ・ターゲティング』日本経済新聞社、2001年11月16日刊、まで刊行されず
- ただ、伊藤先生の多くの研究の原点は、「局面転換を伴う不均衡の経済分析」にあり！